

****レポート****

男女共同参画ランチョンワークショップ
「優れた科学の芽を皆でサポートするために」
～子育てと研究の両立をめざして～

世話人： 日本遺伝学会男女共同参画推進特別委員会
名古屋大学男女共同参画室

プログラム、概要については[こちら](#)をご覧ください。

日本遺伝学会第 80 回大会期間中の 2008 年 9 月 4 日に、名古屋大学において上記のワークショップが行われました。まず、オックスフォード大学でシステムズバイオロジーセンターのディレクターもされている Judith Armitage 先生のイギリスにおける研究者の共同参画の状況について、ppt スライドを用いたお話しがありました。

特に、イギリスでは、研究者採用時の面接員に関して性の偏りを避ける法律があるというお話や、ワークライフバランスを考えた会議の時間規制のお話、また大学では採用時にパートナーの職を確保するため、政府からの助成金があるというお話など、大変参考になる内容でした。その後、JT 生命誌研究館の楠見淳子研究員による研究者夫婦の別居問題について、総合研究大学院大学の手島康介研究員によるご自分の単身子育て経験に基づく真の男女平等性について、また、名古屋大学男女共同参画室の佐々木成江准教授による子育て中の様々なサポートによる研究との両立について、それぞれ大変興味深い、また重要な話題を提供していただきました。



パネリストとして、話題提供をしていただいた方々の他に、品川日本遺伝学会長や大会委員長の森先生にもご出席いただき、会場との間に活発な議論が行われました。名古屋大学男女共同参画室との共催で一般にも公開できたことで、非会員の方にも多くご出席いただき、学会での第 1 回目の試みとしては大変有意義な会となりました。

ワークショップに参加していただいた方の性別及び年齢構成は、下記の通りでした。立ち見で記名用紙にご記入いただけなかった方もいらしたので、実際に聞いていただいた方の人数はもっと多かったと考えられます。参加していただいた方のうち 60 名の方がアンケートにご回答いただきました。今後の活動の参考にさせていただきます。また、今後このような企画や学会としての男女共同参画推進への取り組みについて、会員の皆様のお知恵を拝借できれば幸いです。

なお、本ランチョンワークショップにおいては、日本遺伝学会第80回大会委員会よりお弁当を提供していただきましたことを、ここに改めて感謝申し上げます。

ワークショップ出席者

年齢	遺伝学会会員		非会員		小計
	男	女	男	女	
20代	5	4	2	8	19
30代	10	9	4	14	37
40代	11	4	4	3	22
50代	2	5	0	2	9
60代	3	0	0	0	3
70代	1	0	0	0	1
不明	3	1	0	0	2
小計	35	23	10	27	
合計	男 45		女 50		95
	会員 58		非会員 37		

(参考)
遺伝学会員数

年齢	男	女
20代	128	57
30代	154	38
40代	179	32
50代	155	24
60代	93	8
70以上	33	2
年齢不詳	68	11
合計	810	172

(パネリストや司会者も含めました)